第 54 回 フランク王国とキリスト教①

1 ローマ帝国分裂後のキリスト教

- キリスト教で正統とされた()には、五本山と呼ばれる5つの 有力な教会があった。 ※ローマ、コンスタンティノープル、アンティオキア、イェルサレム、アレクサンドリアの5つ。
- ・なかでも西ローマ帝国に保護された()と、東ローマ帝 国に保護された()が有力であった。 →両教会は、キリスト教の () をめぐって対立するようになった。
- ・476年、西ローマ帝国が滅亡すると、ローマ教会は保護者を失い危機に陥った。
- ・6世紀に入ると、ローマ教皇()を中心にアリウス派を信じる) への布教が盛んに行われた。 (
 - →しかし4世紀にヒエロニムスによりラテン語訳されていた聖書を、ゲルマン人は 読むことができなかった。
- 6世紀から広がる()運動は、民衆の教化に大きな役割を果たした。)がイタリアの(※特に() に開いた修道院は、 「清貧・純潔・服従」という厳しい戒律を掲げた(聖ベネディクトゥスの戒律)。 」をスローガンとした。



教皇グレゴリウス1世



ともある。ゲルマン人

への布教に絵や聖

像を用いたことは、

ったが、後に大問題

を引き起こした。

ベネディクトゥス



6世紀の人物。イタ リアの修道士で、修 道院の設立者として は最も有名な人物 である。今のローマ 教皇も、彼の名前に ちなんでいる。



現在のモンテ=カシノ

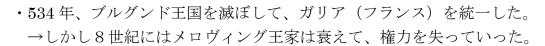
タリアのローマ近郊 にある岩山である。 「祈り働け」というス タイルの修道院は、 他の修道院のモデ ルとなっていった。

モンテ=カシノは、イ



フランク王国の発展

- ・496年、フランク王国の建国者()は、キリスト教 で正統とされているアタナシウス派に改宗した。
 - →ローマ教皇や旧ローマ市民から支持されるようになり、フランク 王国はゲルマン諸国家の中で最も強力な国家となっていった。





クローヴィスの改宗 裸のクローヴィスが、水を かけられて洗礼を受けて いる。他のゲルマン人は、 アリウス派が多かった。

・711年、イスラー	ム勢力の()は、アフリカからイ	ベリア半島に侵
入して()を滅ぼし	、ピレネー山脈を越えてガリ	リアに侵攻した。
→732 年、フラン	/ク王国の()を務める() は、
() ~	でウマイヤ朝を撃退した。	

→カール=マルテルは英雄となり、フランク王国の実権をにぎっていった。



カの境となる海峡 である。ウマイヤ 朝のターリク将軍 は、強引に岩山を 超えてヨーロッパ に侵入した。

ヨーロッパとアフリ



宮室カール=マルテル



フランス中部にあり、 ロワール川沿いの重 要都市である。 ウマイヤ朝軍は、総 司令官が戦死したた めに、ヨーロッパ侵 攻をあきらめた。

3 ローマ教会とコンスタンティノープル教会

) は、偶像崇拝を厳しく禁じるイスラ 726年、ビザンツ帝国の(ーム教に対抗するため、()を出した。

世主となった。

- →ゲルマン人への布教に聖像を使用していたローマ教会は、激しく反発した。
- ・ローマ教会とコンスタンティノープル教会の対立は、決定的となった。 →ローマ教会は、ビザンツ帝国に対抗するために新たな保護者を探し始めた。

4 カロリング朝の成立

751年、カール=マルテルの息子() は、ローマ教皇の支持を受けて メロヴィング朝を廃し、即位して()を開いた。



小ピピンとも。兄がいた が、兄は修道院での生 活を望んだため、ピピ ンが後継者となった。

☆フランク王国(カロリング朝)(751~987年)

- ◆ピピン(3世)(在位 751~768年)

)を攻撃して勝利した。

·756年、ピピンはイタリアの(→獲得した(

)をローマ教皇へ寄進した(ピピンの寄進)。

 \rightarrow (

)が成立し、フランク王国とローマ教皇の関係がさら

に強まった。